

## 岩手県内消費者団体等と東北農政局の食品安全にかかる意見交換会の開催概要

東北農政局 消費・安全部 消費生活課

- 1 日 時 平成30年6月28日（木）13:30～15:40
- 2 場 所 盛岡市西部公民館 2階第1研修室  
（岩手県盛岡市南青山町6-1）
- 3 参加者 岩手県内の消費者団体 3団体9名  
説明者、事務局12名 計21名
- 4 概 要
  - （1）農林水産省からの情報提供
    - ① 食品の安全性の向上に向けた農林水産省の取組等について  
東北農政局消費・安全部 川原消費生活課長より説明
    - ② 遺伝子組換え技術等の先端技術の農業・食品への応用について  
農林水産技術会議事務局研究企画課 森明技術安全推進第1係長より説明

### （2）意見交換・質疑応答

#### 【消費者団体A】

花びらの開いたりんどうの研究を岩手大学で行っているとのこと、どのくらい開いたものなのか。

#### 【技術会議事務局】

岩手県産のりんどうはエゾリンドウという（花が）閉じているのが主流。花が開く品種のササリンドウがあるが日持ちしない。新しい育種技術で花が開いて、かつ長く楽しめる品種を作る研究をしている。

#### 【消費者団体B】

これまでの農政の流れから、農業の衰退や後継者がいないといった農業の現状があり、このような様々な課題を解決していくのが品種改良や遺伝子組換えだという説明には違和感がある。



東北農政局  
澤岡消費・安全部長

#### 【技術会議事務局】

（農業の現状・課題を）品種改良で全てが解決しますというのではなく、

解決方法の一つとして品種改良がかなり貢献しているという意味で説明した。遺伝子組換え技術やゲノム編集技術もその中の一つ。

#### 【 消費者団体 B 】

種の壁を越え、全く異なるものを入れる技術に抵抗感がないような説明に違和感がある。長い年月をかけてきた生命を、ゲノム編集技術のように短期間でいじると何かしら生物のバランスを崩してしまうのではないか。研究するなどは言わないが、食べ物に関してはもっと慎重でいてほしい。



会場の様子 1

#### 【 技術会議事務局 】

遺伝子組換えした時点で色々な性質ができる可能性はあり、遺伝子組換えしたものがすべて安全ですとは言っていない。生物の多様性への影響、人が食べて大丈夫かなど考えられる可能性をすべてチェックしていく。輸入や流通させるのものはしっかり審査し、問題がないものだけが流通される仕組みになっている。自然界で起きている突然変異と違い、人の手で遺伝子を触っていくことへの抵抗感はわかる。この技術を皆さんに勧めているのではなく、こういう技術があるということを説明した。日本でもゲノム編集技術に対する取扱いの議論が動いて一定の方向性を出そうとしているところ。



川原消費生活課長

#### 【 消費者団体 B 】

遺伝子組換え技術についての研究も進んでいると思うが、人体への影響（有益・有害なことなど）やその科学的データや根拠など、これまでにわかっていることを教えてほしい。

#### 【 技術会議事務局 】

世界で1億8千万ヘクタールで遺伝子組換え作物が栽培されているが、健康に被害があったという報告は、この20年間世界中で一つもなかった。米国でも、遺伝子組換えが健康被害を起こすことはないという報告されている。

また、我が国では、生物多様性や食品の安全性について、法律に基づき考えられる影響についてかなりしっかり審査している。

【 消費者団体 B 】

ゲノム編集技術も、人口爆発や食糧危機など広い視野で見れば必要な部分はある。岩手ではサケなどの水産物が減少しており、資源管理や漁獲規制も必要。新しい技術で生産性を上げる一方で、従来型の農林水産業も守ってほしい。

【 技術会議事務局 】

「ジーンバンク」（農研機構遺伝資源センター）に種子だけで22万5千品種保存している。

【 消費者団体 B 】

従来の交雑育種法は遺伝子組換え技術に取って代わられるのか。

【 技術会議事務局 】

それぞれの技術は選択肢の一つであり、全てが遺伝子組換えに置き換わることはないのではないかと。また、平成29年12月時点で国内で使用等が承認された遺伝子組換え作物は9作物177件あるが、実際に商業栽培されているのは青いバラのみである。

【 消費者団体 B 】

ゲノム編集技術はどのような所で行われているのか。

【 技術会議事務局 】

主に国の研究機関（農研機構）や大学で行われている。海外では一般の人でも扱えるようになってきた。



【 消費者団体 B 】

ゲノム編集でできた食品が一般に出回るようになるのはいつ頃なのか。

質問に答える農林水産技術会議事務局の森明係長（左）と奥田技術安全企画評価第2係員

【 技術会議事務局 】

ゲノム編集技術で遺伝子を変えることはできるが、それがどういう成分構成なのかなどデータの蓄積が重要。トマトや鯛は研究が進んでデータの蓄積が進んでいるが、まず国内で規制上の取扱いを検討しないとイケない。

### 【 消費者団体 B 】

遺伝子組換え作物で被害が1例もないとは言い切れないのではないかと。日々の食事の中で遺伝子組換え作物を含む色々な食品を食べている中、特定の食品で害が出たとは証明しきれないし、遺伝子組換え作物だけを20年食べるということもできない。それによって害が出るとか安全だとか証明のしようがない。

### 【 技術会議事務局 】

100%安全というのはなくて、将来にさらに優れた技術が開発されたら今安全といわれるものがそうで無くなることもありうる。私たちも現時点で考えられる影響など、しっかり審査をしている。完全な安全というものはないのかもしれないが、その時その時の技術で考えられる要素は全て審査している。



会場の様子 2

### 【 消費者団体 B 】

遺伝子組換え技術が開発されたとき、砂漠化した土地や開発途上国のような所でも食料が作れるから優良技術だと言われていたが、それから20年経っても飢餓は無くならないし、開発業者は特許を取って金儲けをしている。種を支配されるのではという心配がある。

関係省庁との連携は、特に消費者庁と表示についてしっかりやってほしい。

### 【 技術会議事務局 】

特許については日本にしかない技術もある。特定の企業が技術や特許を独占してしまうのではなく、色々なところで持っている良いものをお互いに交換しながら（クロスライセンス）日本として良いものを作っていきたい。

表示については持ち帰りたい。

### 【 消費者団体 C 】

遺伝子組換えに関しては、人が口にすることで安全と言われるものでも安心しないと買わないし食べない。自然界にも突然変異があるということだが、人工的な技術を加えたものと自然界にあるものはやはり違う。

食品表示については、ゲノム編集技術で作られたものはしっかり表示させて消費者が選べるようにしてほしい。

【 消費者団体 A 】

人の口に入る食べものや自然環境の調和という面を配慮をして研究してほしいし、世界でも進んでいることなら、良い研究を進めていただきたい。アレルギーの子供が増えているが、環境だけでなく食べものも含めて長生きができるような害のない食べものを望む。消費者がアンテナを高くして聞く機会を持って知ること、自分で判断することも大事。

【 消費者団体 A 】

国が奨励した子宮頸がんワクチンの予防接種は1年もしないで色々な障害が出てきた。国が承認したものであれ、簡単に投げかけてほしくない。人によって安全や必要なものの考え方は幅広いもので、研究者の方と一般の者の思いにズレがあるのではないか。消費者が選べる範囲を幅広くし、時間をかけてやってほしい。

【 消費者団体 C 】

遺伝子組換え技術やゲノム編集技術の良いところだけ与えられている印象がある。リスクや欠点を正直に両方知らせてほしい。

【 技術会議事務局 】

今日の話の中では、安全ですとか安心ですとか言わずに客観的データに基づいた話をさせていただいた。遺伝子組換え食品については、考えられる全ての性質の変化について、その可能性も含めて安全性評価をしていることをお知らせしている。誘導しているつもりはない。

リスクも含め、今後どのように規制していくのかまだ何も決まっていない状態。まずは今こういう技術ができているということを皆さんに知ってほしい。行政を進めていく上で皆さんからの意見がとても大事と考えている。反対だという意見ももちろんだし、コミュニケーションをとりながら、その声を研究サイドに反映していく。規制が決まっていない中だが、リスク等についても触れながら話していきたい。